

教科等研究会（小学校社会科部会）

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

児童が主体的に思考・判断し、表現する社会科学習の創造
～言語活動の充実を通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/26	37人	甲佐中	10/13	潤徳小	澤村法顕	11/7	嘉島東小	吉田幸広	1/27	甲佐中	三嶋剛正

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究主題設定の理由

・教育の今日的課題から

「知識基盤型社会（新しい知識、情報、技術が、政治、経済、文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会）」と言われる時代がはじまり、とりわけ、旧来のパラダイムの転換を伴うことの多くなる社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断がいつそう重要になると考えられるようになった。これから求められる「生きる力」とは、社会が日進月歩で変化しつつある中で、社会に主体的に対応し、問題解決に取り組める力であり、目指す人間像でもある。

学習指導要領では、指導計画作成において配慮すべき事項として「各教科等の指導にあたっては、児童の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る上で必要な言語事項を整え、児童の言語活動を充実すること。」と記された。

このことは、知識・技能を活用することで思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、言語活動をさらに充実する必要があることを示している。

また、国内外の学力に関する学力調査からも思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に改善されつつあるものの、やはり課題であることが明らかとなっている。

今後も習得した知識や技能をもとに、活用する力を培うことが、今日的な教育課題である。

・本研究部会の歩みから

本テーマは4年次となる。研究会では学習指導要領をもとに、主体的に調べて考える学習活動及び児童の問いを大切にしたい問題解決的な学習を進めてきた。特に言語活動を大切にしたい学習の取り組みは、多面的な思考力や判断力、表現力を育成する上で大きな成果をあげてきたと考えている。

今年度もこれまでの研究取り組みと成果をはじめ、本郡の県学力調査による傾向と分析、上益城郡の研究テーマも踏まえた上で、これまでの社会科研究会の歩みを土台とした言語活動の充実と習得した知識や技能をもとにした思考・判断し、表現する授業づくりをさらに充実させ、進めていくこととする。

② 研究の視点

視点1 「進んで課題を追究する学習活動の工夫【問題解決学習】」

児童が課題を発見し、問いを持ち、課題解決の活動を実践しようとする学習を行うことが主体的な学習を行うことであると考え。そのために、児童に様々な社会的事象に出会わせたり、生活体験から学習対象とする社会事象に気づかせたりするなどの手立てが必要であり、児童が意欲を持って学習する態度の育成につながると考える。

これまで、「主体的に考え、表現する」学習活動として、問題解決的な学習（「課題づくり」→「予想」→「追究・調べ学習」→「情報整理」→「再追究」→「学習のまとめ」）の実践が積み重ねられてきた。今年度も更に問題解決的な学習を充実、深化した研究を行っていくこととする。

視点2 「基本的な知識や技能を確実に身につける指導の工夫」

単元（題材）における基本的な知識や技能を学習過程に位置づけ、確実に身につけられるように取組を行っていく。その習得した知識や技能をもとに思考力・判断力・表現力等を培い、併せて活用する力を育成する指導を行う。

本研究会の取組では、単元に即した基礎・基本の徹底事項を学習課程に位置づけたり、獲得した知識をもとに今後の社会の情勢や変化について思考させるなどの取組を行ってきた。今年度も社会科の土台を確実に身につける指導の工夫を行っていくこととする。

視点3 「獲得した知識や技能を活用する学習活動の工夫」

社会科の技能は観察と資料活用である。これまでのように資料を活用して必要な情報をまとめる力は今後も児童につけるべき力である。本研究会ではさらに、調べたことから根拠を見つけ、思考・判断したことを表現したり、自分の考えを他人と交流したりして学習できることまでを活用する力ととらえて研究を進めていくこととする。

これは、県学力調査の分析結果から、資料から全体の傾向をとらえたり、必要な情報を読み取ったりする力に、児童の課題があることを踏まえたものである。また、複数の資料に関連させて読み取り、整理し再構成する活用力の育成も重視していきたい。

視点4 「児童のよさを伸ばし、次の実践に生かすための評価活動」

評価活動は、教師が児童のよい点を励まして学習意欲を高めたり、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に行うことが大切である。また、これまでの指導及びその成果を振り返り、今後の指導改善に生かしたり、多様な達成状況の児童に対して、個別指導を行うめやすにもなる。

本研究会では、めざす児童像に即して学習後に新しい自分を発見するための評価や児童の変容を導くような評価、その児童の変容を見届ける評価を工夫することとする。

そのためには、現実的に可能な様々な方法を使い、できるだけ複眼的な評価に努めることとし、児童の取組や育ちを、刻々に見取り、励ます指導的評価活動や児童自身による自己評価や自己変容記録、児童同士による相互評価等を更に充実させた取組を行っていくこととする。

視点5 「人間の生き方に迫ることのできる学習活動の工夫」

社会科は、人間の営みを通して人間の生き方を学び、自らの生き方を考えるという本質をもつ教科である。そのため、授業づくりでは、学習の中で人間の生き方にふれ、何を学ばせるかに重点をおくことが大切となる。ねらいを明確にし、日常生活に密着した内容から入るなどの工夫を行いながら、ゲストティーチャーをはじめ様々な手立てで人の生き方や考え方を学習し、人材を活用することが教材の本質につながると考えられる。

(2) 成果と課題

【成 果】

- 今年度は、会員数が40名となり、授業研究会の活性化も更に図られた。3回の授業研究会も、各学年部に分かれてワークショップ形式で行い、活発な意見交換と協議で研究内容を深めることができた。また、学年毎に部会を作ったことで、会員は担当学年の研究も深めることができ、実践的な研究会となった。
- 3回の提案授業が、児童にとって身近な地域素材を生かしたものであった。地域教材として活用することで児童の学習意欲が向上し、いきいきと主体的に学習に取り組む児童の姿が見られた。
- 事前研究会の日程を全会員に通知し、事前の検討会から研究内容を協議する場を設定した。震災の影響もある中、各学年部会で1つの提案授業に3～5回もの事前研究会が行われるなど、会員の研究意欲も高く、活発な意見交換が行われ、研究会の活性化が図られた。



【ワークショップによる研究会】

【課 題】

- 児童の思考力、判断力、表現力等を高める言語活動の工夫が更に必要である。
- 地域素材をもとに単元を構成した場合の評価方法や評価基準等のあり方について検討の余地がある。また、児童がより追究意欲をもち、その意欲を継続させるような評価の開発の必要がある。
- 会員が年々増えており、研究会の活性化も図られて来たが、会員でない教師にも事研究会への参加の呼びかけや研究内容等を伝えるなど郡内全体の社会科研究の普及、向上にも努めていきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

- 単元名 「わたしたちの生活と政治」（東京書籍）

【研究の視点との関連】

視点1「進んで課題を追及する学習課題の工夫【問題解決学習】」について

- 身近な課題を設定することで学習意欲を高める。
- 発問の工夫と児童の学習に対する必要感を高める学習の展開を行う。

視点2「基本的な知識や技能を確実に身につける指導の工夫」について

- 行政のはたらきやボランティアのはたらき等、言葉や役割を明確に理解させる。
- 資料の読み取りや学習問題の立て方を理解させる。

視点3「獲得した知識や技能を活用する学習活動の工夫」について

- 友達との対話活動を重視しながら思考を広げ深める活動を設定する。

視点4「児童のよさを伸ばし、次の実践に生かすための評価活動」について

- ノートを活用して自分の考えを明確にさせたり深めさせたりしながら、児童の実態に応じて学習活動の展開を行っていく。

視点5「人間の生き方に迫ることのできる学習活動の工夫」について

- 被災された方、役場の方、復旧・復興に関わる方々の思いや願いを考える活動を重視した単元構成を設定する。

【自 評】

- 児童が身近な内容で意欲を持って取り組めたことはよかった。
- 学習問題を児童の願いから考えさせたが、少し難しくなってしまった。
- 単元の目標からめあて、評価、まとめまでの一貫性をさらに図る必要があった。

【質疑・応答及び研究協議】

- 質）今後のG Tの活用や学習の進め方について教えてほしい。
- 応）行政のはたらきをしっかり押さえた上で、6時間目には問題転化を図り、ボランティアに携わった方からお話を聞き、復興支援について多面的、多角的な思考を促したい。
- 質）児童は行政のはたらきについて現在はどうくらいの知識を持っているのか。
- 応）税金の学習をした経験があり、その時に町や国などの行政や税金などの説明をしている。
- 協）ホワイトボードを生かした学習により、児童の思考が視覚的に理解できたり、板書により整理されたりして分かりやすい学習となった。
- 協）地域の橋や道路、学校を教材化することにより、児童にとって身近で理解しやすい学習となっていた。他地域における復旧や復興の行政のはたらきを合わせることで更に効果的に学習になると考えられる。
- 協）「つまり・・・」などの言葉を使って児童が根拠を持って説明していた。行政などの難しい語句は、はじめは町や国のはたらきというようにすると更に分かりやすいと考えられる。

【助言・まとめ】

- 教科書では東日本大震災や災害救助法等が取り扱われている。今回の学習では身近な熊本の復興を教材化し、緊急時における行政の関わりを意欲をもって学ぶことができる単元づくりとなっていた。更に熊本の資料をそろえたり、調べ学習などをおこなったりしていくのもよい。
- 2枚の写真の比較から児童が「なぜかな？」と考える効果的な資料の活用がなされていた。子どもたちの願いは地域住民の願いでもあり、これらをもとに学習を進めることは、将来、児童が主体的に政治に参加する土台作りにもなり、有意義な学習となっていた。

(2) 学習指導案

○ 単元の目標

- 地方公共団体や国の政治の働きに関心を持ち、国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに我が国の政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。
- 地方公共団体や国の政治の働きに関する社会的事象から学習問題を見だし、聞き取り調査をしたり、各種資料を活用したりして調べたことをまとめるとともに、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、適切に表現する。



【効果的な資料活用】

○ 単元の指導計画（7時間扱い）

時	主な学習活動・内容	評価基準・方法等
①熊本地震の発生（本時）	○熊本地震の発生と、まちの人たちの願いについて話し合い、学習問題をつくる。	関意態① 思判表①
②熊本地震への緊急対応	○熊本地震が発生したとき、町や県、国はどのような取組をしたのか調べ話し合う。○なぜ迅速な対応がとれたのか考える。	技能① 思判表②
③災害復旧に向けた国の支援	○災害復旧に向けた国の取組を調べる。	技能② 知理①
④復興を願う町や町民の取組	○復旧・復興に向けて、県や市はどのような計画を立てて、どのような取組をしているのか調べる。	知理①
⑤さまざまな支援と絆	○復興に向けて、ほかにどのような人々が、どのような取組をしたのか調べる。	技能①
⑥違う視点から考える。	○震災直後にボランティアが活躍していた例から、これまで行政の働きについて学習してきたことに疑問を抱き、考え直すことで、行政とボランティアの役割の違いを考える。 ○GTの話を聞き、行政とボランティアのどちらも大切だということに気付く。	思判表③
⑦まとめる	○学習問題について調べてきたことを、項目ごとに整理して、新聞記事を書く。	思判表④ 関意態② 知理②

4 本時の学習

(1) 目標

災害にあった人々の願いを実現する政治の働きについて、学習問題を作ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問（○）と予想される児童の反応（・）	・教師の指導の手立てと評価	備考
導入 5分	1 本時の課題をつかむ。	○乙女橋前の道路は、地震の直後、どうなっていたか覚えていますか。 ・壊れていた。・通れなかった。 ○地震の後、壊れていたものが直された例を思い出してみよう。	・資料を黙って見せて、児童の興味関心から授業を始める。 ・身近な例を挙げさせ、学習への関心、意欲を高める。	資料① 写真 2枚
展開 35分	2 資料をもとに考える。 (1) 資料①や自分たちの経験をもとに考える。 (2) 資料②を元に①との違いを考える。 3 自分たちの「願い」を通して考える。 (1) 自分自身の願いを明らかにする。 (2) 自分たちの願いをもとに学習問題を作る。	地震直後と現在の違いについて考え、学習問題を作ろう。 ○これらは誰が直したのだろう。 ・近所の人たち ・町の職員 ・ボランティアの方々 ・自衛隊 ○なぜ②と違って、①の場所は直してあるのだろう。 ・お金が足りないから①だけ直した。 ・①の方がよく通るから。 ○みんなの、今一番の「願い」はどんなことですか。 ・乙女小が使えず困っているから、町や県、国に一日も早く学校を修理してほしい。 ○その願いを叶えるために、調べていきたいことを書いてみましょう。	・行政とボランティアなどが関係していることを抑える。 ・グループ活動で多様な考えに触れさせ予想を書かせ、整理する。 ・考えを揺さぶる問い返しを行う。 ・行政のはたらきを意識させて考えさせる。 ・書きやすいよう、「◆◆で困っているの、○○に△△してほしい。」という枠を提示する。 ・子ども達の思いを自由に書かせる。 【評価】（ノート・発言・観察） 災害にあった人々の願いが行政を通じてどのように実現されるのか、学習問題を作成している。	カード 資料② 写真 2枚 カード
終末 5分	4 学習のまとめをする。	○では、みんなの調べていきたいことを解決していきましょう。 <学習問題> 被害を受けた乙女小学校を中心にして、みんなの願いが行政によってどのように実現されていくのかを調べていこう。	児童の思いを整理して、教師がまとめていく。	学習問題の作成例

※十分満足できる状況（A）の例

災害にあった人々をはじめ自分たちの願いが行政を通じてどのように実現されるのか、自分の経験も関連させて学習問題を作成している。（ノート・発言・観察）